

令和3年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	10	学校名	県立太田第一高等学校				課程	全日制(単位制)			学校長名	鈴木 清隆				
教頭名	[全日制]西野 守郎、塚田 歩						[定時制]小出 岳夫			[附中]岡部 英昭			事務室長名	佐藤 総英		
教職員数	教諭	66	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	4	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	5	技術職員ALT等	9	計	95
生徒数	小学科	1年次		2年次		3年次		4年次		合計		生徒数	合計クラス数			
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	合計				
	普通科	87	66	117	58	104	80	—	—	308	204	512	14			

2 目指す学校像

グローバルな課題の解決に挑み、持続可能な社会づくりに貢献する起業家となる基礎を育む学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 課外授業受講登録生徒数、および学習機会を有効に活用する生徒の向上心を保持する体制作りが望まれる。 国公立大学合格者数の維持・増進を学校全体の目標と掲げる一方、部活動との両立を支援し、多様化する学習環境への対応が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を最優先と捉えるとともに、課外授業をさらに有効に実践するための体制を構築する。 現行のシステムを有効活用し、学習サイクルの定着を重視する。高大接続改革に対応した学習指導の研究を深める。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト初年度の国公立大学現役合格者は、現役42名で前年比10名以上の減であった。センター試験から問題傾向が変わり、一部の科目を除き十分な対応ができなかったことや、コロナ禍において地方大学への挑戦者が例年より少なかったことが要因である。また共通テスト対策準備へのリスクを考え、学校型推薦選抜及び総合型選抜入試に挑戦する生徒も少なかったことも要因である。今後は共通テストを検証し、一般入試で合格に必要な学力を伸ばす授業の質の向上とともに、生徒の探究活動等の実績を生かした推薦指導など進路指導の多様化を図り、生徒の希望の多い地元国立大学の合格者を増やすことが学校活性化につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の内発的動機を刺激し、進路意識を高めるための進路講演会や進路学習の時間を計画的に実践する。 大学入学共通テストに対応するため、各教科とも問題文や資料の読解力、思考力を養う授業や問題演習に取り組む。 総合的な探究の時間等を利用した探究活動と大学入学後の学びが結びつくような継続的な指導を実践する。 生徒の探究活動等の活動実績を生かして、学校推薦型選抜や総合型選抜に対応できるように、学校全体で、組織的かつ計画的な指導体制を構築する。

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンのマナー違反や過度の使用、歩きスマホの生徒が増えてきた。 ・自転車・バイク事故が年間通じてある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マナー向上の呼びかけ、本人の自覚、家庭での協力をどのような方法で強化するかを見直す。 ・交通事故を減らすための安全教育をどうするか。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入状況は88% (昨年同率) と高く、文武両道は維持できている。しかし、生徒数の減少等で運動部の部員が減少している。 ・新型コロナウイルスの影響で、行事がほとんど実施できていない。文化祭をオンラインで実施するなど工夫したが、生徒の活動に制限が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動への加入を推進し、学習と部活動の両立を主体的に行えるように支援する。 ・新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底したうえで、できる限り学校行事を実施する。 ・キャリアパスポートを活用し、学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫する。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度6月に実施した勤務時間調査において、本校全日制教職員の一ヶ月平均超過勤務時間数は4 1時間 10分であった。また、超過勤務時間が4 5時間を越える教職員は26名であった。一昨年に比べ改善されつつあるが、依然として超過勤務が常態化している傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織として複雑化・困難化する教育課題に対応し、効果的な教育活動を行うため、教職員一人一人の意識改革を進めるとともに、現在行われている業務について見直し効率化を進め、長時間勤務が常態化している勤務状況を見直す。

4 中期的目標

- (1) 単位制高等学校の特色を生かし、学力の向上を図り、進路希望の実現に努める。
- (2) シティズンシップ教育を通して、生徒の主体的な社会参画に努める。
- (3) 探究を軸とした学びのスタイル改革を推進する。
- (4) ICTを効果的に活用することで、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を推進する。
- (5) 地球的視野に立って行動するための資質・能力を育成する。
- (6) 生徒一人一人に寄り添う指導の実現に向けて、業務の効率化を進め、超過勤務時間の縮減を図る。

5 本年度の重点目標

	重点項目	重点目標
(1)	国公立大学現役合格者数	合格者数54人。
	難関大学合格者数	合格者数3人。
(2)	学校運営に参画した生徒ののべ人数	生徒による「青龍だより」の発行等、のべ100人以上の生徒が学校運営に参画する。
	生徒が外部資源を活用した回数	各教科において年間1回以上、生徒が外部資源(※)を活用して、深い学びを実現する。 ※外部の人的・物的資源の他、インターネット、図書館等も含む。

(3)	探究的な学びを取り入れている授業の割合	全ての授業で、年間を通して探究的な視点を取り入れた授業を実践する。
	探究実践事例を作成している割合	各教科で探究実践事例を作成する。
	コンピテンシーベースでの年間到達目標を作成している割合	各教科科目で「生徒が何ができるようになるか」という考えに基づいた年間到達目標を作成する。
	アントレプレナーシップ系コンテスト参加者数	ドリームパス等へのコンテストに5組以上が参加する。
	他の教員の授業から気づき・学びを得た教員ののべ人数	各教員が毎月1回以上、他の教員の授業から気づき・学びを得る。
	授業に満足している生徒の割合	各教科における生徒の授業満足度90%以上。
(4)	授業における教員のICT活用割合	各教員がそれぞれの授業においてICTを効果的に活用することにより、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を推進する。
(5)	実践的な英語力を身に付けている生徒の割合	高校3年次において、英検2級相当の生徒の割合50%以上。
	授業の中でダイバーシティ教育を取り入れている割合	すべての生徒が年間1回以上、ALTや留学生とのディスカッション等を通して異文化理解を深める。
	授業の中でSDGsを取り入れている割合	各教科・科目の授業において年間1回以上、SDGsについて生徒が考える機会を作る。
	授業の中でSTEAM教育を取り入れている割合	科学系コンテスト等(※)へ2組以上が参加する。 ※県主催の「高校生科学体験教室」「高校生科学研究発表会」「科学の甲子園茨城県大会」等
(6)	1か月平均超過勤務時間数	各分掌、年次等で業務の効率化を推進するための具体的な工夫を行うことで、1か月平均超過勤務時間数を45時間以下にする。